

2019年1月29日(火)

国際部 職員会議資料

## 2018年度 北京研修 実施報告書

日 程：2018年12月21日(金)～28日(金)

参加生徒：高1・4名 (B ■■■■■ D ■■■■■ E ■■■■■ I ■■■■■)

引 率：川又 克己

### ◎事前学習(細野・川又)

- ①11月16日(金) プレゼンテーション分担決め、レポートテーマ決め
- ②11月22日(木) 現代の中国(横屋先生による授業)
- ③11月24日(土) 映画「霸王別姫」鑑賞
- ④11月28日(水) 中国のベンチャー企業について・テーマ確認
- ⑤12月14日(金) 映画「霸王別姫」鑑賞
- ⑥12月15日(土) 結団式、プレゼンテーション練習会

### ◎研修内容(ハイライト)

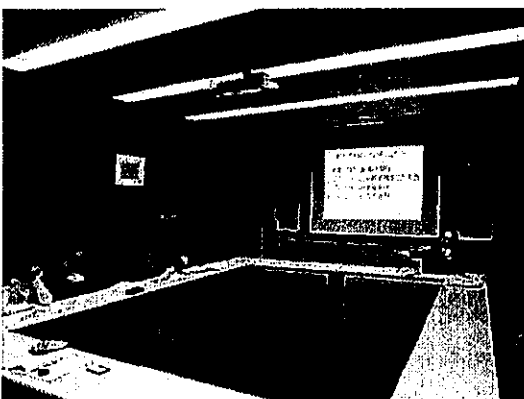
#### ●12/21(金)



- ・月坛中学校にてホストファミリーも同席し歓迎会。初めは緊張していた幕張生も、ホストと会い、嬉しそうであった。手土産の質にやや差があったかもしれない。
- ・生徒によるプレゼンテーションは、幕張側は鉄道、コミックマーケット、アニメ。月壇側は中国の食、観光地、文化紹介。

#### ●12/22(土)・23(日) ホストファミリーと過ごす

#### ●12/24(月)



- ・A.M. 在北京日本大使館  
参事官の藤岡さんより講義と質疑応答。中国では、7/7, 9/3, 18, 12/13が何の日かを知らない人はいない、など考えさせられた。
- ・P.M. 企業訪問：北京网梯科技发展有限公司  
遠隔教育を行っているベンチャーIT企業を訪問。  
国は違えど、現代の課題と目標は同じだと感じた。

●12/25 (火)



- ・A.M. 清華大学・北京大学  
月坛の日本語の先生、北京大学の大学院生と共に学校見学。大学の規模の大きさに驚いていた。
- ・P.M. 天安門・故宮・景山公園  
北京の空気は政府の規制により良くなってきているらしく、その点での心配は減っている。しかし、この時期は寒く、ゆっくり見学するには向かないかもしれない。観光客が少ないのは良かった。

●12/26 (水)



- ・A.M. 月坛の日本語授業参加  
月坛の生徒・日本語教員が幕張生のために特別授業を展開してくれた。高3生のクラスで授業を受け、彼らの日本語力の高さに感心していた。日本語の文法を考えるのは新鮮だったようである。
- ・P.M. 雍和宮・国子監  
事前学習が不足しており、ややもったいない感じであった。

●12/27 (木)



- ・A.M. 万里の長城 (八達嶺)  
零下15度、強風の中の女坂。想像を絶する寒さだった。一つの体験としては良かった。
- ・P.M. 送別会  
生徒と教員のみ参加。一週間の滞在を写真で振り返りながら簡単な報告を行った。夕飯は月坛の先生方が火鍋のお店へ連れて行ってくれた。

◎研修後の活動

- ・1月7日 (月) Recapセッション (細野)
- ・1月24日 (木) 各自のレポート提出
- ・2019年度 文化祭展示物の準備
- ・2019年度 短期海外研修会のプレゼンテーション準備・展示物の作成

## ◎生徒の感想より

### 大使館

- ・大学進学者のうち4年制大学は2割強で短大を含めると4割ということは驚きでした。
- ・日本にはない、飛び級が可能な学校や大学受験の実情など、大使館を訪問しなければ知ることのできない事がたくさんありました。

### 企業訪問

- ・中国の学校現場において、IT技術を取り入れているのが地方だと聞いて驚きました。
- ・IT企業には、有名な大学出身の人が多く平均年齢も若いのだと改めて知りました。会社のことだけではなく、中国の労働の法律についても知ることができました。
- ・中国の企業を訪ねて話をさせていただくというのは、観光目的などで中国を訪れてもなかなかできない経験で、貴重でした。

### 月坛中学

- ・ホストファミリー温かく接してくださり、夜には様々なところに連れて行っていただいたり夕食に連れ行ってくださったりととても充実した一週間を送らせていただきました。今月末にはお世話になったバディが日本に来るということで、今度はこちらがおもてなしできればなと思っています。
- ・授業見学に参加させていただきましたが、自分たちの母国語が、文法的にクローズアップされているのを見て不思議な気持ちでした。
- ・バディはびっくりするほど日本語が上手でたくさん話すことができました。とても優しく、メニューについて嫌がらず説明してくれたり興味を示した店に連れて行ってくれたりと充実した日々を過ごすことができました。

## ◎引率教員から

- ・月坛の温かさを再認識させられた。普段、私たちが外のお客様を受け入れる時にも同じ（又はそれ以上の）気持ちでもてなしたい。
- ・日本語の授業は班に加えてもらい、ホスト生以外の月坛生とも交流ができた。これが幕張生には嬉しかったようである。単なる見学を越えた授業参加の形が大切であると感じた。
- ・大使館のみならず、天安門広場もパスポートが必須である。
- ・研修として、「中国の文化・現地の生活を学ぶ」、「修学旅行では行くことのできない場所に行き、できないことをする」などの目的があれば、この先も魅力的な研修足りえると考える。
- ・生徒への進め方一つで参加者人数が変わってくるため、説明会のみならず、教員も生徒に進めてみると良いのではないか。（無理強いするつもりはないが、背中を押してやることがプラスに働く生徒も。）